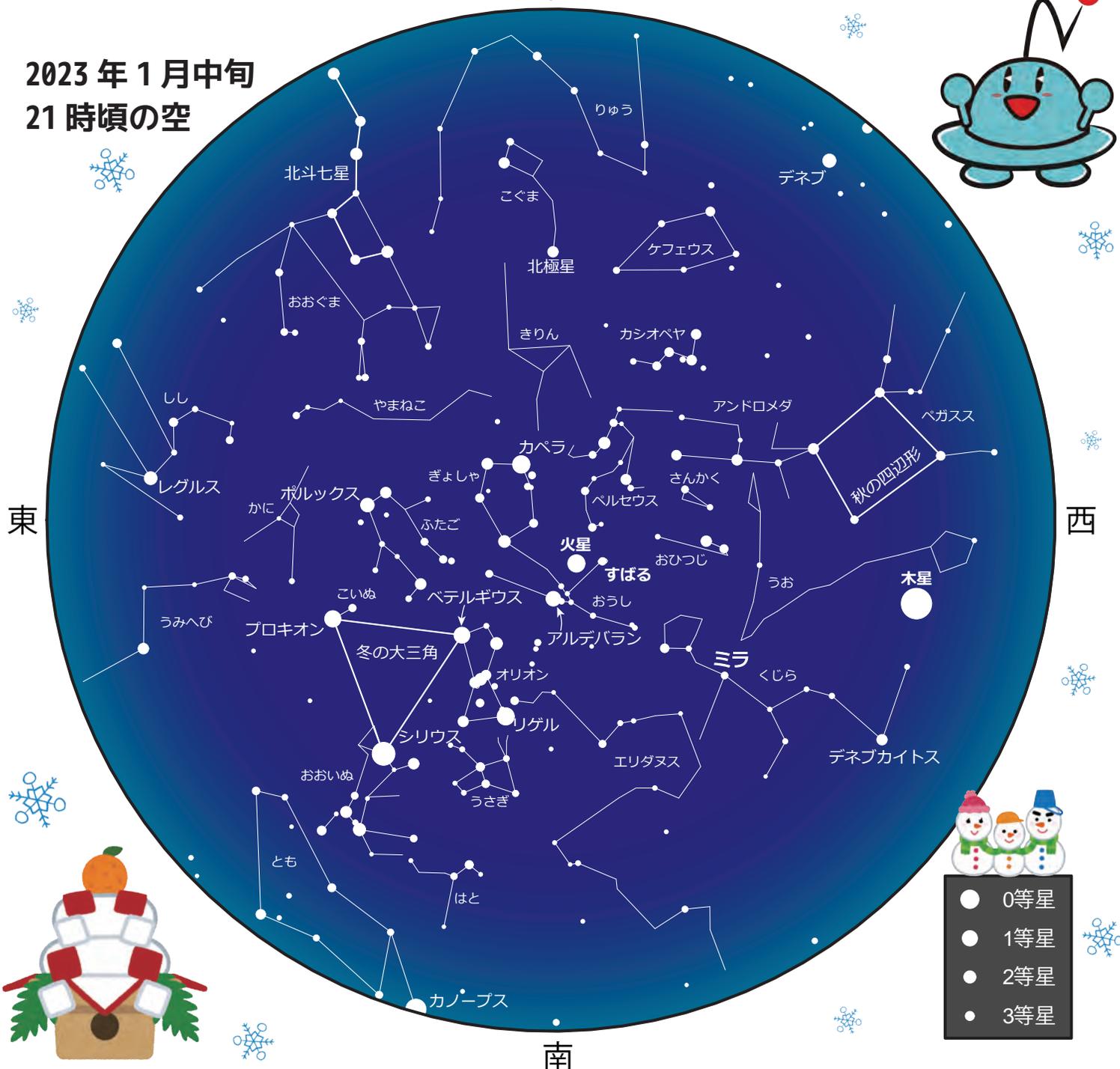




1月の星空案内

北

2023年1月中旬
21時頃の空



東

西

南



- 0等星
- 1等星
- 2等星
- 3等星

新しい年を迎え、夜空を見上げれば冬の透明度の良い空の中に、いくつもの明るい星を見つけることができます。オリオン座の**ベテルギウス**、おおいぬ座の**シリウス**、こいぬ座の**プロキオン**を繋げば、小学4年生も学習する「**冬の大三角**」ができあがります。このうちシリウスは夜間全天で最も明るい恒星で、日本では地域によって「大星（オオボシ）」という和名で親しまれていました。頭上には火星の赤い輝きが目につき、その近くには**プレアデス星団**（M45）という星の集まりを見つけることができます。この星団には「すばる」という和名があり、望遠鏡が発明される前から、肉眼で見える星団として親しまれてきた天体です。昨年秋から見えている木星は西の空に傾き、2月には見納めとなるでしょう。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 18時～, 19時～, 20時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

1月の月の満ち欠けと惑星について



満月
7日



下弦
15日



新月
22日



上弦
29日

1月の天体観望会で月が見える日時は？



1/7(土)・・・19時、20時の回観察可能



1/28(土)・・・全ての回で観察可能

水星：下旬頃、夜明け前東のごく低空で見える(30日西方最大離角)。【-0.1等】

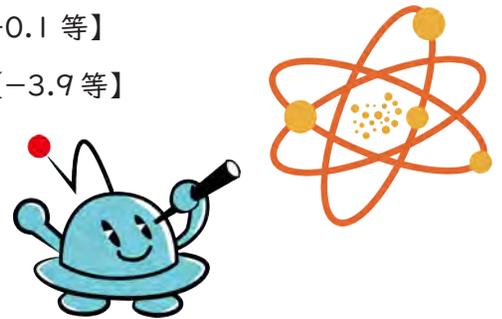
金星：日没後、西の低空で見える(宵の明星)。1月後半ほど高度が高くなる。【-3.9等】

火星：宵の口から東の高い空で見えはじめる。【約-0.8等】

木星：宵の口から南西寄りの空で見えはじめる。【約-2.3等】

土星：宵の口から西の低空で見えるが、すぐに沈んでしまう。【約0.8等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ。ただし水星は1/30の明るさ。



おすすめの観察対象

【双眼鏡で楽しむ冬の夜空】

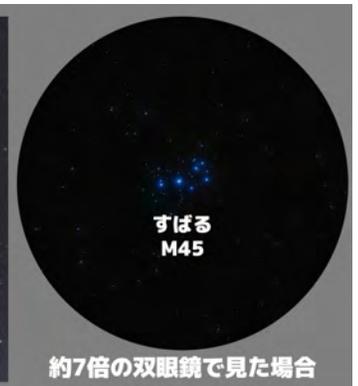
空気が澄んだ冬の美しい星空は、双眼鏡を使えば観察する楽しみが一層増します。右図のようにオリオン座を目印にし、7倍程度の双眼鏡でオリオン大星雲、ヒアデス星団、すばる(プレアデス星団)を探してみましょう。月明かりが無ければ、双眼鏡でもオリオン大星雲は星雲の淡い輝きが見えます。ヒアデス星団はアルデバランも含めて“V”の字のように、すばるは“?”マークのように、星が集まっている様子がわかります。(※アルデバランはヒアデス星団のメンバーではありません)



約7倍の双眼鏡で見た場合



約7倍の双眼鏡で見た場合



約7倍の双眼鏡で見た場合

【シリウスBは見えるかな?】

シリウスは**白色矮星**という星の燃えカスを従える連星であることが知られています。この暗い伴星は**シリウスB**と言い、現在約50年ぶりに主星から最も離れた状態となり、観察の好機を迎えています。ただ日本の冬場は大気の揺らぎが激しく、主星のまばゆい輝きの影響を受けて、観察の難易度がとても高いのが特徴です。当館では1月中旬頃から土曜日の観察会でシリウスBが見えるかどうかの「チャレンジ」を開始する予定です。



観察キャンペーンのHPはこちら

